

小児等在宅医療連携拠点事業の平成25年度実施状況及び平成26年度実施案（ 1 ）

事業項目	事業内容		平成25年度 実施状況	平成26年度実施案
1 小児等の在宅医療が抱える課題の抽出と対応方針の策定	1 在宅医療・訪問看護研究会、療育支援専門部会等の開催		1 在宅医療・訪問看護研究会(4回開催) 医師(病院、診療所)、看護師(病院、訪問看護ステーション) 12名で構成 2 総合支援協議会療育支援専門部会(4回開催) 医療、福祉、教育、療育、行政等の関係者及び当事者の家族 18名で構成 3 総合支援協議会相談支援専門部会(4回開催) 福祉(相談支援専門員等)、行政等の関係者 12名で構成	1 県内各分野の有識者会議の開催 平成25年度に引き続き、療育支援専門部会等において小児等在宅医療連携拠点事業に関する進行管理や課題解決に向けた検討を行う。
				2 医療分野の各団体代表により構成される会議の開催 医師会、看護協会、訪問看護ステーション連絡協議会等の関係団体との連携強化を図りながら事業を推進する。 在宅医療・訪問看護研究会メンバーに保健師を新たに追加
2 地域の医療・福祉資源の把握と活用	1 医療、福祉、ピアサポート等の社会資源の把握と「千葉県つながろうマップ」を活用した情報提供		医療、福祉等の小児等在宅医療の関係機関の協力の下、機関名、所在地、連絡先等の基本情報をウェブ上の地図に掲載する。 協力機関数 計1,435 (医療 690、福祉 606、教育 35、行政・保健 104))	小児等の家族や関係機関に対して、マップの活用促進のための周知を図る。 新たに麒麟会HPにも掲載する。 未掲載の関係機関に対して、継続してマップへの情報掲載の協力依頼を行う。 マップへの掲載情報の追加、修正を行う。 新たに短期入所施設の空床状況を掲載する。
	2 介護職等が行うことができる吸引等医療的ケアの実施事業所の実数把握と活用(新規)			小児等の喀痰吸引等医療的ケアを実施している事業所を調査し、実施事業所をつなごうマップに掲載する。 どのような支援があれば医療的ケアが可能かを明らかにし、今後の支援につなげる。
3 地域の小児等への在宅医療資源の拡充と専門機関との連携	1 訪問診療医等の拡充と連携	1 訪問診療の実践と医療機関との連携に対する理解の促進(新規)		小児在宅医療に関わる訪問診療医・医療機関の医師(同じケースを診療している)でケースカンファレンスを実施する。(3か月に一度) 上記カンファレンスに、訪問診療医と医療機関医師との連携に興味・関心のある医師会員・診療所医師の参加を促す。 カンファレンスを通じて、医師間の有効な連携のキーワードを抽出する。
		2 郡部を中心とした小児等在宅医療について考えるシンポジウムの開催	郡部を中心とした小児等在宅医療について考えるシンポジウム 「夷隅・長生・君津・市原・安房地域での医療的ケアのある子ども達への支援の現状と課題、これから」(1月19日(日) 木更津市 約110名) 基調講演 「小児在宅医療の現状と未来」 医療法人財団はるたか会 理事長 前田浩利氏 シンポジウム (座長)千葉リハビリテーションセンター愛育園 園長 石井光子氏 (シンポジスト) ・医療法人鉄蕉会亀田総合病院 小児科医長 市河茂樹氏 ・国保直営総合病院君津中央病院 新生児科部長 大曽根義輝氏 ・医療法人鉄蕉会亀田訪問看護ステーション 所長 佐々木真弓氏 ・特定非営利活動法人母里子ネット 代表理事 汐田千恵子氏 ・社会福祉法人九十九会 生活支援センターつくも 主任・相談支援専門員 三本法広氏 ・(有)安心の絆(訪問看護ステーション) 代表取締役 村串恵子氏	目的を達成したため、26年度は実施せず。
		3 小児等在宅医療に実績のある医師による実践報告会を通じたネットワークづくり	小児等在宅医療に実績のある医師による実践報告会(11月28日(木) 千葉市 13名) (座長)千葉県医師会 大野京子氏 <u>参加した医師の間で、小児等在宅医療との関わりや日常的に抱えている課題等について自由な意見交換を行った。</u>	平成25年度に引き続き、地域の医療機関と在宅診療医との顔の見える関係づくりを進める。 協力機関:千葉県医師会・千葉県こども病院

小児等在宅医療連携拠点事業の平成25年度実施状況及び平成26年度実施案（ 2 ）

事業項目	事業内容		平成25年度 実施状況	平成26年度実施案
3 地域の小児等への在宅医療資源の拡充と専門機関との連携	2 訪問看護師等の拡充と連携	1 重症児未経験看護師を対象とした同行訪問研修プログラム開発(新規)		麒麟会で行う重症児訪問看護未経験看護師への同行訪問の実践を通じて、訪問看護STでの人材育成プログラムを開発する 協力機関:千葉大学大学院看護研究科地域看護システム管理学領域 吉本照子教授・杉田由加里准教授
		2 新規に小児等訪問看護を行う訪問看護ステーションへの研修、支援	地域の訪問看護ステーションからの依頼を受けて研修を実施。 (講師) 医療法人社団麒麟会 統轄マネージャー谷口由紀子氏 等 (4件/半年) 出前研修 1コース 5日、同行訪問研修 1コース 15日	現任看護師、新任看護師を対象に、それぞれ、集合研修、同行訪問研修を実施する。 千葉県看護協会新任看護師育成プログラムを受講し、小児訪問看護に関心のある新人看護師に対する同行訪問研修を実施する。(新規) 協力機関:千葉県看護協会・千葉リハビリテーションセンター
		3 経験のある訪問看護ステーションへのコンサルテーション	地域の訪問看護ステーションからの依頼を受けて実施。 (講師) 医療法人社団麒麟会 統轄マネージャー谷口由紀子氏 等 (3件/半年)	平成25年度に引き続き、周知を図るとともに訪問看護ステーションからの依頼を受けて実施する。
		4 超重症児に対応できる訪問看護師の人材育成(新規)		看護師、訪問看護に対する超重症児のアセスメント方法に関する研修を実施する。 協力機関:千葉県こども病院
		5 医療機関及び重心施設等に所属する看護師と訪問看護師とのネットワークづくり(新規)		県内医療機関等に所属する看護師が、県内各地域の訪問看護STに出向き、同行訪問を通じて、訪問看護の制度・実際の理解や医療機関で行う退院支援の振り返りを行う。
	3 NICUからの退院促進 支援と社会資源の創出	1 NICUを有する医療機関への退院促進支援	(講師) 医療法人社団麒麟会 統轄マネージャー谷口由紀子氏 等 (2件/半年)	平成25年度に引き続き、NICUを有する医療機関からの依頼を受けて、退院支援についての助言や情報提供を行う。
		2 東葛南部での短期入所受け入れ先の創出と受け入れ人数の拡大	東京ベイ・浦安市川医療センターにおける重症心身障害児の一時受け入れに係る人材育成及びシステム構築を支援する。 千葉リハビリテーションセンターで看護師(3人を5日ずつ受入れ)の研修を実施。	平成25年度に引き続き、東葛南部における短期入所事業所の運営等に対する支援の実施及び看護師の研修の実施 協力機関:千葉リハビリテーションセンター
		3 千葉市内における短期入所先の創出と運営等の支援(新規)		千葉市において、新規に開設する短期入所事業所へのコンサルテーション及び看護師の研修の実施(千葉市単独事業との協働事業) 協力機関:千葉リハビリテーションセンター
4 地域の福祉・行政関係者との連携促進	1 相談支援専門員・行政職員・保健師・訪問看護師・介護福祉士等による協働支援のあり方の検討			1 一般相談に対する保健師の役割遂行支援(新規) 県や市町村の保健センター等の保健師を対象にワールドカフェを開催し、地域における多職種の役割の理解を深め、顔の見える関係を築く。
			2 医療依存度の高い子どもと家族への多職種による協働支援のあり方を学ぶ事例検討会 (12月1日(日) 流山市 約50名、12月7日(土) 成田市 約50名) (講師)・千葉県教育庁葛南教育事務所 指導主事 井上みどり氏 ・訪問看護ステーションあおぞら 所長 井川夏実氏 <u>多職種による協働支援のあり方に関する講演と仮想事例を用いての小グループ演習を行った。</u>	平成25年度に引き続き、多職種による協働支援のあり方を学ぶ事例検討会を開催する。 残り7つの医療圏ごとに実施する。(1回当たりの時間拡大も検討) 医療機関のソーシャルワーカー等と相談支援専門員との地域交流会を開催し、相談支援専門員の認知度向上と顔の見える関係づくりを進める。
			3 山武地域における医療的ケアを要する子どもと家族への多職種による協働支援に関する勉強会 (12月17日(火) 山武市 約35名) (講師) 医療法人社団麒麟会 統轄マネージャー 谷口由紀子氏 <u>多職種による協働支援の必要性についての講演と関係者による意見交換を行った。</u>	目的を達成したため、26年度は実施せず。

小児等在宅医療連携拠点事業の平成25年度実施状況及び平成26年度実施案（ 3 ）

事業項目	事業内容	平成25年度 実施状況	平成26年度実施案
	2 医療と福祉の連携促進の観点からの相談支援専門員の育成支援	1 障害児のサービス等利用計画作成についての地域の自立支援協議会との意見交換（12月18日(水) 我孫子市 14名） （アドバイザー）医療法人社団麒麟会 統轄マネージャー 谷口由紀子氏 <u>医療的ケアを要する障害児のサービス等利用計画の作成を支援するため、市の自立支援協議会にアドバイザーを派遣し、意見交換を行った。</u>	目的を達成したため、26年度は実施せず。
		2 医療的ケアを要する子どもと家族への相談支援専門員の役割・行動についての講演会（1月14日(火) 市川市） （講師）医療法人社団麒麟会 統轄マネージャー 谷口由紀子氏 <u>市川市内の相談支援専門員を対象に、医療的ケアを要する子どもと家族への相談支援に関する留意点や相談支援専門員の果たすべき役割等についての講演を行った。</u>	目的を達成したため、26年度は実施せず。
		3 医療的ケアを要する障害児のサービス等利用計画作成に携わる相談支援専門員用のガイドラインの普及	相談支援専門員用のガイドラインの普及定着を図る。（必要に応じて内容も更新する。）
			4 相談支援専門員小児在宅支援リーダー育成研修（新規） 県内の各医療圏域（県内9地域）に1～2名を対象に、医療的ケアのある子どもの相談支援ガイドラインを実践でき、かつ未経験の相談支援専門員の支援を行うことができる人材を育成する。
			5 相談支援専門員小児在宅支援初心者向け育成研修（新規） 児童に対する相談支援に興味関心のある相談支援研修参加者に対し、重症児に対する相談支援の必要性や意義・目的に対する理解を促す
	3 相談支援専門員と医療機関のソーシャルワーカーとのネットワークの構築（新規）		医療機関に心理的距離のある相談支援専門員と医療機関のソーシャルワーカー（MSW）の顔の見える関係を構築する。
	4 喀痰吸引等医療的ケアの実施における訪問看護師・介護福祉士等の連携（新規）		市町村との協働で行う、喀痰吸引等医療的ケアを実施できる人材育成 協力機関 千葉市・柏市・木更津市・成田市・夷隅長生ひなた中核地域生活支援センター等
	5 重症児に対する介護福祉士等への人材育成支援（新規）		重症児への生活支援・対応方法の基礎的知識の研修の実施 協力機関：千葉リハビリテーションセンター
	6 地域の障害福祉行政に携わる職員等への啓発	地域の障害福祉行政に携わる職員等への研修会（11月19日(火) 千葉市約50名） （コーディネーター）医療法人社団麒麟会 統轄マネージャー 谷口由紀子氏 （講師）・市川市障害者支援課 障害者地域生活支援センター 竹野敬一氏 ・長生村健康福祉推進課 主査 川島千秋氏 ・千葉県障害福祉課 地域生活支援室長 吉野美砂子 <u>先進的取組みを行っている自治体からの発表と参加者との意見交換を行った。</u>	県内市町村と拠点事業との地域福祉検討会（新規） 25年度事業をリニューアル 3か月に一度、各地域における医療的ケアのある子どもの在宅支援の現状と取組について情報共有を行い、市町村と共に各地域の地域福祉を考える。
	7 小規模な児童デイサービスや福祉施設で、より安全な看護を提供するための支援	児童デイサービスや福祉施設からの依頼を受けて実施。 （講師）医療法人社団麒麟会 統轄マネージャー谷口由紀子氏 等（1件/半年）	平成25年度に引き続き、周知を図るとともに児童デイサービスや福祉施設からの依頼を受けて実施する。
5 患者・家族の個別支援	1 電話相談や訪問支援等による個別支援や定期的なフォローアップ	障害児の家族や関係機関等からの依頼を受けて実施。 （支援者）医療法人社団麒麟会 統轄マネージャー谷口由紀子氏 等（4件/半年）	平成25年度の実施の成果を検証しながら、引き続き、周知を図るとともに障害児の家族や関係機関等からの依頼を受けて効果的に実施する。 （支援者）医療法人社団麒麟会 理事（社会福祉士）吉橋 准子氏 等
	2 多職種協働ケア担当者会議開催の働きかけ		

小児等在宅医療連携拠点事業の平成25年度実施状況及び平成26年度実施案（ 4）

事業項目	事業内容	平成25年度 実施状況	平成26年度実施案
6 患者・家族や学校関係者等への理解促進・負担軽減	1 地域の小児等在宅医療・福祉・保健について、当事者や関係者が協働して考える機会を提供するためのワールドカフェの開催	1 地域の小児等在宅医療・福祉・保健について、当事者や関係者が協働して考える機会を提供するためのワールドカフェ（1月26日（日） 旭市 約40名） 「香取・海匝地域での医療的ケアのある子どもたちへの支援の現状と課題、これから」 パネルディスカッション （パネリスト） ・総合病院国保旭中央病院 小児科部長 小林宏伸氏 ・社会福祉法人口ザリオの聖母会 地域生活支援センター友の家 所長 白井正和氏 ・社会福祉法人口ザリオの聖母会 聖ヨセフつどいの家 所長 杉田 明氏 ・匝瑳市訪問看護ステーションつばきの里 管理者 英 香代子氏 ワールドカフェ 「香取・海匝地域の医療的ケアのある子どもへの支援について参加者全員で語ろう」 （プラクティショナー） ・千葉リハビリテーションセンター 看護局長 荒木暁子氏	4 - 1 - 2「医療依存度の高い子どもと家族への多職種による協働支援のあり方を学ぶ事例検討会」と統合して実施する。
	2 医療依存度の高い子どもや家族が社会資源を活用し、在宅生活を営めるよう支援するためのサービス活用パンフレットの配付	1 「子どもの在宅療養Q & A ～安心できる療養生活のために～」の作成・配布 子どもの在宅医療に関するQ & Aを6000部作成し、関係機関に配布。	必要に応じてパンフレットを増刷・配付する。（必要に応じて内容も更新する。）
	3 医療依存度の高い子どもを支えるための特別支援学校との連携		2 患者・家族や学校関係者等への理解促進・負担軽減のためのシンポジウム開催（新規）
		1 特別支援学校の教員に対する講習会（11月1日（水） 市川市 約40名） （講師） 医療法人社団麒麟会 統轄マネージャー 谷口由紀子氏 <u>医療的ケアを要する生徒の支援で配慮すべき事項について実地指導を行った。</u> 2 特別支援学校の校長会及び教頭会議での事業説明・意見交換 （ 校長会 11月12日（火） 千葉市 34名、 教頭会議 1月24日（金） 千葉市 63名） （講師） 医療法人社団麒麟会 統轄マネージャー 谷口由紀子氏 千葉県障害福祉課 地域生活支援室 真嶋千春 <u>小児等在宅医療連携拠点事業の説明や教育との連携についての意見交換を行った。</u>	特別支援学校の教員との意見交換会（新規） 25年度事業をリニューアル 毎年8月に特別支援学校の教員を対象にして実施される医療的ケアの勉強会（卒後移行支援に関するもの）への参加を予定。 平成25年度に引き続き、特別支援学校や教育委員会に働きかけて実施する。

「平成26年度実施案」については、平成26年度当初予算の県議会の承認と厚生労働省による事業採択を前提としています。